

大 會 宣 言

昭和七年七月、我が國に於ける單一無産政黨として結成されたる、我が社會大衆黨は長き反動の重壓に抗し、よく革新の牙城を死守して戰つて來た。果然國民大衆の信望と期待は我が黨に結集して既成政黨の急激なる崩壞の途中に飛躍的な躍進を遂げた。國民大衆は我が黨の躍進に驚嘆し、賞讃の聲を浴びせた。然し時局は選舉戦の僅の勝利に酔つて安んじたるを許さない。

今日非常時局の名の下に總括される慶況なる社會不安は五、一五事件以來引續き惹起したる國家革新を目指す血盟團事件、農民決死隊事件、二、二六事件を初め幾多の重大なる不祥事件を醸じて益々深刻化した。政局は議會と政黨に其の基礎を置かざる懸然内閣が擔當し然もその更迭が頻繁に去來した。財界は軍需インフレーションに依る稀有の好調を謳歌し一部資本家は老なる利得を占めつ

つあるにも關らず、勞働者及び勤勞階級の賃金収入はこれと並行せず物價の急激なる高騰と準戦時体制の強行に依る増税に勤勞國民の負擔は倍化しその生活は甚だしも窮迫と困苦を招來しつつある。然も政府には國民生活の不安に對し何等具體的な對策なく政治の推進力を以て自他共に任ずる軍部は廣義國防より狹義國防に轉落してこの苛酷なる國民負擔の軽減を眞剣に考究せず、既成政黨は政權團内より閉め込されてその失地回復の氣力をえなく、國民生活に關する積極的な意圖を有せざる今日に於て眞に國民生活の向上を圖り、國家革新を斷行し以て非常時局を根柢より打開する重大なる任務を身を以て遂行せんとするものは我が社會大衆黨あるのみである。

林内閣突如の桂冠の後を受けて近衛内閣はブルジョア政權最後

の切り札として非常時政局の商面に登場した。依然たる軍部、官